

「子どもの望ましい生活習慣・学習習慣定着研修事業」 令和4年度（2022年度）しりべし生活習慣・学習習慣研修会

令和4年（2022年）12月3日（土）10:30～11:45（後志教育局からオンライン配信） 参加者：43名

保護者、学校関係者、市町村教育委員会職員等を対象にGIGAスクール構想の下で整備された学校における1人1台端末を題材に、どんな学力・学習観を育みたいのか、そのためにどのような学びを学校で行っているのか、それを家に持ち帰ってどのような学習に繋げていくのがよいのかについて学びました。

講演者 「家庭における1人1台端末の活用について」-新たな学習観を育むために-
講師 公立千歳科学技術大学理工学部情報システム工学科 教授 小松川 浩氏

何のために学ぶのか？

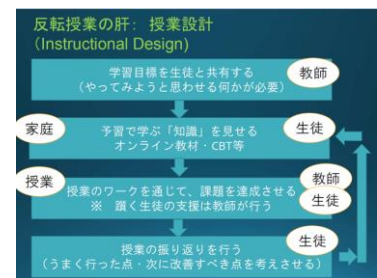
- ・ Well Being（幸福であること）のための学び
- ・ 学び方を学ぶ（情報の活用を含む）ためにICTは不可欠
- ・ 将来の変化を予測することが困難な時代に向けて、必要となる「学力」とは、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③学びに向かう力・人間性（新学習指導要領）
- ・ 日本のオンライン教育は、世界の中で「周回遅れ」であることにコロナを通じて全国民が知ることになった。



小松川 浩氏

Well Beingのための学び—学校ではどんなことができるの？—

- ・ 1人1台端末を活かすための授業は、主体的・対話的な学びの展開（個別最適な学び）が重要であり、基本は「おもしろそうだ」と思わせ（動機）、いままでの経験と結び付け（関係）、振り返って「できそうだ」と子どもが確認し（自信）、「やってよかった。次もがんばろう」（満足）という授業設計で実施するとよい。
- ・ 千歳市における Instructional Design 実践を紹介。外国人に何かを紹介するテーマをチームで設定して、オンラインで実際に会話ができるようにする課題解決型学習を行った。教師が教えるから子ども自らが学ぶへの転換（授業方法の改善）と、家庭学習の活用促進（保護者の理解）を図った。



1人1台端末の家庭への持ち帰りによりできること

- ・ 英会話の作文、ビデオチャット、態度・学力調査

持ち帰り学習で心がけること

- ・ 持ち帰り学習で大事なポイントは「学校と家庭の信頼関係」である。
 - ①校務関係・アンケート調査・簡単なワークでのクラウド利用等により学校・家庭でクラウドに慣れる。
 - ②段階的に持ち帰りを図る。「まずは冬休み」、「まずは希望者」等、簡単にできることから実施する。
 - ③保護者向けセミナー（動画配信）、授業参観等により保護者に学校での取組を知ってもらう。
 - ④情報モラルを意識する。「トラブルが心配なので使わせない」ではなく、トラブルは学びで防ぐ。
- ・ 家庭で知識を学び（予習、オンライン）、学校で知識を使うという、「反転授業」を行う。
- ・ 行政・学校・家庭の三位一体の取組が大事である。

参加者の感想

- ・ ICTの活用に関して、授業や家庭学習に対してどんな使い方ができるか自分でも考えてみたくなる、とてもいい講演でした。
- ・ ICTをどう活用していくのか、親である自分たちが学んでいくことが大事だと思いました。
- ・ 子どもが端末を上手に活用するには、学校の授業ですることと家庭学習でできることのすみ分けを意識することが大切と感じました。
- ・ 家庭だけでなく、学校としての関わり方について勉強になりました。特に反転授業についてとても興味を持ちました。Well Beingという新しい学びの力に向けて、ICTは欠かせないと思いました。
- ・ 時代の変化に学校現場のみならず、家庭、行政が対応して子供たちの学びを進化させていかなければいけないと感じた。

保護者に学校での取組を知ってもらう

- 保護者向けセミナー
- ※ 動画配信の活用
- 授業参観
- 目標を合わせる： (すべての子供たちの生きる力を育むため) 教師の教育力(子供の学習の変化を見る) 学校の運営力(故障・トラブルにも安心してもらう) 教育委員会・PTAの調整力(縁の下で繋ぐ支援)